

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 ぼぶら		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成30年5月1日	評価結果市町村受理日	平成30年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、生きがい、心の豊かさ、馴染みのある地域での生活の継続が理念に盛り込まれている。朝礼都度唱和し、共有している。また、ユニットでも目標を作り、理念を実践できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに定期的に参加して交流機会を設けている。運営推進会議では入居者や家族や地域に住む方たちから意見を頂いている。職員が地域に住んでおり、町内の行事参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は定期的に認知症についての内部研修、外部研修に参加し、理解と知識を得ている。ホームの見学者や認知症の知識が乏しい家族に対して専門的な見地から助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が中心となり、町内会、利用者、家族、他事業所と意見交換している。家族への参加を促し、火災等の緊急時の対応など周知している。職員も出来る限り参加して、皆と話しやすい関係を作っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に管理者が市町村担当者と連絡や情報交換を行っている。認定調査、生活保護者の実態調査などスムーズに行えている。今後は管理者以外の職員も外部研修に積極的に参加していきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設の危険のある利用者がある為、やむを得ずエレベーター前のドアを施錠している現状となっている。利用者から職員へ声掛けしてもらい、訴えがあった時は気持や行動を制限せず、付き添いを実施している。その他、身体拘束の対象となる行為は一切行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で定期的に虐待についてテーマにしている。他、外部研修にも参加する機会を作っていて、学びや再確認の機会となっている。今後は、職員間でも注意し合える関係ができるように努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で定期的に各職員が権利擁護に関することを学ぶ機会をもっている。日常的には管理者より利用者が尊厳をもって生活することができるように指導があり、職員はそれを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者が必要事項を十分に説明した上、不安や疑問点に丁寧に答え、家族への理解、納得を図ることができている。最近では家族へ薬局の居宅療養管理指導についての説明を実施した。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に家族へ利用者の近況を伝え、御家族が話やすい雰囲気作りや信頼関係に繋げていけるように取り組んでいる。相談・苦情申し立ての手順や窓口について双方へ周知している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はユニット会議への参加、申し送りの際に、個人の思いや意見を聞き取り検討され、業務の見直しに繋がっている。また、管理者は定期的に全職員と面談し、個々の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は定期的な職員との個人面談で、目標の設定と達成度を一緒に確認している。やりがい、向上心が持てるような助言も日々欠かさず行っている。また、管理者は、職員個々の勤務希望や働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に管理者から職員へ各ユニットで個々の利用者に合った支援の指導を行っている。職員の力量の把握に努め、各職員に必要なスキルを獲得できるように内部研修の調整及び外部研修参加を促すことが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、リーダーを中心として同じ法人以外のグループホームや高齢者施設などにも見学に行っている。グループホーム協会の集まりに出席し、他ホームとの報告や相談を通して、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に聞き取りを充分に行い、ニーズを掴み、より良いサービス提供を目指している。利用者との関わりを多く持ち、信頼関係を作り、情報を職員皆で共有して支援に活かせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の聞き取りを充分に行い、本人がどうしてほしいのかを把握してサービスを提供している。相手が話しやすい声掛けの仕方ニーズを引き出し、安心した関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は、まずはホームに慣れて頂くことはもちろんだが、本人家族の思い、身体機能、健康状態を合わせて考慮し支援している。今何が必要なのかを見極めて必要なサービスを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活に張り合いをもって、何事も一緒に取り組むことにより互いの信頼関係に繋げている。利用者を人生の先輩として敬意を払い、職員が分からない事を教えて頂く姿勢で接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係、絆を大切に考え、困っている事があれば、お互いに話し合い、共に支えあえる人間関係を築けるように努力している。定期的に近状報告を行い、外出行事の内容の相談や参加も促して、家族交流の支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会等、本人家族の意思を確認し、良い関係の継続が出来るように支援している。個別行事では、これまでの生活の馴染みの人や場所などとの関係の継続ができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内のレクリエーション行事等、外出行事をする事により、利用者間のコミュニケーションが取れる様、又支え合えるように支援している。利用者同士が声を掛け合い一緒に家事を行う姿も見られてきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も本人家族から相談のあった際は親身になって応じている。家族と思い出話をすることも多い。希望がある時は入居や介護のアドバイス、就業など幅広く相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別支援を目標に一人一人のニーズを実現できるように努めている。言葉に出来ない利用者の思いも汲み取れるよう表情、体の動きを観察したり、家族も交え話し合ったりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聞き取りでの情報に加え、本人家族から聞き取りし、以前の暮らしを把握し、より良い環境の提供に努めている。馴染みのある人との交流も出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調、精神状態、出来る力の現状を統合的に把握し、保持、向上に努めている。各利用者の出来ることを把握し、家事、趣味活動にお誘いしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関、職員の多面的な意見やアイデアを利用者本位で考えて課題をあげて、本人の無理のないような目標を設定。家族意向や医療関係者の助言も介護計画に反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者が、今どのような状態で生活し、何ができ、またできなくなったことなどこまめに記録に残している。今後の支援についても話し合い、介護計画とその実践に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアや地域の社会資源を活用している。四季折々の外出や本人の希望実現に多面的な視野で取り組んでいる。事業者の対応のみでは課題の解決が難しい時は、家族にも協力を貰っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域住民、近隣の施設、傾聴ボランティア、市、公共施設等の高齢者向サービスを活用し、事業所だけの力ではなく社会資源も取り入れ、豊かな生活をサポートしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞きつつ、主治医、訪問看護、歯科、皮膚科、眼科、脳神経外科等を受診している。総合的な身体状況の把握を行い、必要な医療への受診が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、訪問看護があり、個々の入居者の状況を報告や相談をし適切な助言を得ることができている。特別変化があった際は、主治医へも報告することもできている。日頃より介護と看護の連携が出来ており、今後も継続していききたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師、看護師、相談員、ご家族と話し合いを重ね早期退院の働きかけに努めている。治療状況に応じて利用者やご家族の意向を聞き、今後の支援に繋げていけるように努めている。円滑な連携の為に医療機関と日頃より報告相談を実施。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアに関して、本人、家族、主治医を交え話し合いをしている。本人の状況に合わせて担当者会議を開催し主治医から家族への説明も実施、方が一に備え、ホームとしてのケア出来る事、出来ないことを共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて、定期的に研修を実施している。緊急時ファイルをいつでも確認できるようにしており、会議などでも入居者の状況に照らし合わせ口頭でも確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害に備え避難訓練を実施している。様々な時間帯や火災場所、火災以外を想定して訓練をしており、避難訓練については地域の方にも運営推進会議を通して随時報告している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりに合わせた話し方をして、今までの生活を尊重、プライバシー保護に努めている。トイレ誘導は小声で行うなど本人の羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの考えに合わせて、無理強いせず、自己決定が出来るようが声掛けを行っている。家事参加もお誘いした際は、本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添い、その人その人のペースにあった生活が出来るように話し合い支援している。朝に各利用者の1日の目標を決めて、職員間でも共有し、その日の支援についている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや、今までの生活の中で築いてきた自分なりのおしゃれ、身だしなみ等を大切に支援している。入浴後の着替えも本人と一緒に選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に考えて作るようにしている。調理も補助することで、出来ることは行って頂いている。片付けについても同様に実施している。各利用者の食事の好みも把握し、定期的に献立に入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量は確認、記録し、個々の状態を把握したうえで、一人ひとりに無理がないように十分な摂取量を維持できるように努めている。個々の好まれる飲み物食べ物物の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。就寝時は特にこまめに実施。義歯の方は洗浄剤を使用している。誤嚥や肺炎につながらないよう、口内のものをしっかり取り除いてから臥床してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自力でトイレでの排泄ができるように支援している。尿意のない方、曖昧な方には、定期的にトイレ誘導、パット交換など適切な介助をしている。失敗のないように排尿間隔を掴み、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がスムーズに出るように、食物繊維を多く含んだ食事や、十分な水分摂取量を維持し、毎日適度な運動をして頂くように支援している。他、便秘時に牛乳を提供する等、下剤に頼らない工夫もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が拒否された際は無理強いせず、対応に変化をつけ、本人が気持ちよく入浴に応じられるよう配慮している。入浴中は浴室で職員とコミュニケーションをゆっくりと取る機会ともなっており、仲の良い入居者同士で入る場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り自由に休憩を取れるようにしている。無理してしまう方の場合はこちらから休息を促す場合もある。眠れないと訴える方については本人の話を傾聴し、心理面の安心も意識して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局からの指示を受けつつ、全職員が薬情報も確認し効能、副作用も把握するよう努めている。薬が変更になった際は、その後の変化の様子観察記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のやりがい、楽しみとなるようなことを生活歴、本人家族の話から引き出したり、新たに興味を持ったことはないか、日常の様子からも参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より、玄関先への外気浴、庭での昼食会、散歩、行事での買い物、外食、季節を感じられるドライブ等を実施している。その他、個別の行事として、本人の行きたい所へ行き、好きなこととして頂くような支援も行っており、今後も継続していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金はホームで管理している。外出時、本人による支払いとお金の確認を支援している。ホームのお祭りや買い物レクの際に主にサポートしている。自分の自信に繋がる支援として継続したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族にお礼状を送ったり、年賀状作りをサポートしている。電話は本人の希望を聞き、家族の都合を踏まえて支援している。入居者の中には携帯電話持参者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって動きやすく、居心地の良い共用空間となるように、清掃を毎日実施し、職員の気付きや保清に繋がるよう努めている。ソファやテーブルの位置など職員本位ではなく入居者本位で検討し、9名のバランスを考え使いやすいように定期的に見直しをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルは会話が弾むように仲の良い利用者同士が近くなるように工夫して配置。その他、ゆっくりと過ごす為にソファも設置している。席の取り合いとならないように、見守りと声掛けも実施。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力頂き、馴染みの家具や壁飾りを本人と話し合いながら見やすく使いやすい場所に置くようにしている。心の落ち着く環境整備ができるように支援している。家族の写真を居室内に飾るように配慮し、利用者の安心に繋げている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやスイッチの場所等さりげなくメモ書きを貼っており、迷わないように工夫をしている。利用者が出来る限り、自分の力で生活できるように、夜間帯の常夜灯や手摺の位置の見直し等の環境整備を実施。		